

平成 29 年 度

事業報告書

法人

東部エリア

中部エリア

全社機能

その他事業

その他の取り組み

自 平成29年4月 1日

至 平成30年3月31日

社会福祉法人 美芳会

目次

| | | |
|-----------------|-----|----|
| 1 理念 | --- | 3 |
| 2 平成29年度総括 | --- | 4 |
| 3 法人 | --- | 5 |
| 4 東部エリア | | |
| I すどキャンパス | --- | 7 |
| II はまかぜキャンパス | --- | 8 |
| 5 中部エリア | | |
| III 風の杜キャンパス | --- | 9 |
| IV するが荘キャンパス | | |
| 6 全社機能 | --- | 10 |
| V ケア支援 | | |
| 7 その他事業 | --- | 11 |
| 1. 富士市委託事業 | | |
| 2. ふじのくに型福祉サービス | | |
| 3. 介護職員初任者研修事業 | | |
| 4. 成年後見人等受任事業 | | |
| 8 その他の取り組み | --- | 12 |
| 1. 地域交流 | | |
| 2. 委員会 | | |
| 3.3 ヶ年計画 | | |

1 理念

(1) 法人理念

- ① 地域でのこころ豊かな生活のために
- ② 想いに副う

☆ 理念の説明

① 地域でのこころ豊かな生活のために

福祉施設は地域の大切な資源です。施設に関係する者は地域の人々と共に、よりよい生活環境となるように努めなければなりません。

特に人間関係の豊かさが生活の豊かさとなります。地域におけるさまざまな場でさまざまな人間関係を作り維持するよう、事業を通して実施します。

②「想い」に副う

「想い」は記憶

「想い」は気持ち

「想い」は意思

「想い」はニーズ

副うは単なる対人支援サービスの提供ではありません。

副うは「想い」を実行することとは限りません。

副うは利用者が主役、支援者は脇役の共同作業です。

すべての人に自分なりの生活への「想い」があります。

ひとりひとりの「想い」はすべて別々です。

そのひとりひとりの「想い」に副うように生活を支援します。

2 平成29年度総括

平成29年度事業は、特別養護老人ホーム及び養護老人ホームの入所系サービスについてはおおむね順調に推移してきた。しかし、ショートステイ事業、デイサービス事業等の在宅系事業については、サービス利用の低迷が続き、数年来の傾向を改善させるに至らなかった。さらに、すどキャンパス及びはまかぜキャンパスの建物自体の老朽化に伴い、雨漏りや空調機器の修理費用が高むこととなった。今年度の資金収支状況は約3千2百万円のマイナスとなり。この状況には強い危機感がある。

在宅サービスの利用の低迷については、すどおよびはまかぜのデイサービスセンターでの総合事業の進展の影響による収入単価の減少、美芳会支援センターの集中減算を回避する影響による法人デイサービス利用の減少、医療系デイケアサービスとの競合激化などが考えられる。また、すどの杜及び風の杜のショートステイ事業の低迷は、地理的環境及びケアマネジャー対応が適切に対応しきれていないことがあると考える。当法人特有の事情として、圏域内にサービス提供事業所が少なく、集中減算という介護保険制度上大きな課題があり、この回避対策をいかにとるかに法人全体の命運がかかっているという認識である。

全体として、個別課題はあるものの、平成29年度事業の統括としては以上のことに尽きるといえる。

3 法人

1. 名称

社会福祉法人 美芳会

2. 所在地

〒417-0815

静岡県富士市増川510番地の1

3. 役員及び評議員（平成30年3月31日現在）

理事長 大塚 芳正

理事 5名

奥津 匡俊 大塚 芳子 鈴木 克代 明石友子 秋山 實

評議員 7名

渡邊 高秀 川窪 吉男 青野 貴芳 鈴木 茂 萩野 幸太郎

松本玲子 島道 守

監事 2名

中西 隆一 荒川 紘

4. 理事会

第80回理事会 平成29年6月1日開催

第1号議案 平成28年度事業報告承認について

第2号議案 平成28年度決算報告承認について

第3号議案 新役員候補者の選任承認について

第4号議案 役員等報酬規程案承認について

第5号議案 定款変更

すどの杜敷地 増川510-21 基本財産繰入再承認について

第6号議案 定時評議員会招集日時及び提出議案承認について

第7号議案 すどの杜寝具類リース契約締結承認について

第81回理事会 平成29年6月23日開催

第1号議案 平成28年度事業報告承認について

第82回理事会 平成29年7月18日開催

第1号議案 業務執行理事選任及び職務承認について

第2号議案 平成28年度決算書誤りについて

第3号議案 高額修繕承認について

すどの杜エアコン取替工事

はまかぜ建屋屋上防水工事

第4号議案 社会福祉法人美芳会入所基準要領等承認について

第5号議案 養護老人ホームするが荘入所者入院患者日用品

及び本人支給金支給要領承認について

第6号議案 事業実績予算対比現状について

第83回理事会 平成29年9月20日開催

第1号議案 監事交代による評議員選任解任委員の就任承認について

第2号議案 評議員辞任による後任候補者推薦案承認について

- 第3号議案 評議員選任解任委員会招集の承認について
- 第4号議案 デイサービスセンター風の杜事業閉鎖承認について
- 第5号議案 事業実績予算対比現状について

第84回理事会 平成29年11月21日開催

- 第1号議案 育児・介護休業等に係る規程変更承認について

第85回理事会 平成30年1月24日開催

- 第1号議案 入所施設預り金管理規程変更承認について

5. 監事監査

平成28年度監査 平成29年 5月25日

6. 評議員会

平成28年会計年度評議員会 平成28年 5月24日開催

- 第1号議案 平成28年度事業報告承認について
- 第2号議案 平成28年度収支決算書報告承認について
- 第3号議案 平成28年度社会福祉充実残額報告承認について
- 第4号議案 新役員選任について
- 第5号議案 役員報酬規程承認について
- 第6号議案 定款変更
すどの杜敷地 増川510-21 基本財産繰入再承認
について

平成29年度臨時評議員会 平成30年 3月28日書面決議

- 第1号議案 租税特別措置法第40条の規定に係る定款変更承認について
- 第2号議案 平成29年度補正予算承認について
- 第3号議案 平成30年度事業計画承認について
- 第4号議案 平成30年度収支予算承認について

4 東部エリア

I すどの杜キャンパス

1. 特別養護老人ホームすどの杜
2. すどショートステイ事業所

(1) 事業計画

- | | |
|------|---|
| 目的 | すど特養内の誤薬事故やヒヤリをゼロにする |
| 計画内容 | ①職員に誤薬は命の危険になりかねない事故である事を認識させる ②与薬終了チェックリストを使い、与薬が終了していることを毎日確認し、飲ませ忘れがないようにする ③与薬有資格者に対してチェックリストを用いて与薬方法の評価を行う |

評価指標と基準

- ①職員に誤薬は命の危険になりかねない事故である事を認識させる
- ②与薬終了チェックリストを使い、与薬が終了していることを毎日確認し、飲ませ忘れがないようにする
- ③与薬有資格者に対してチェックリストを用いて与薬方法の評価を行う

(2) 計画の実践結果

①職員に誤薬は命の危険になりかねない事故である事を認識させる
毎日唱和することに終始し、本来の目的である、誤薬の危険を一人一人が認識できるまでになったかについては、評価しておらず不明である。

②与薬終了チェックリストを使い、与薬が終了していることを毎日確認し、飲ませ忘れがないようにする
与薬終了チェックリストを変更した結果、記載の仕方について混乱が生じ、全員に周知するまでに時間を要したが、終了が確実にチェックでき、飲ませ忘れをなくすことができた。
当日の与薬実施者も明確になった。

③与薬有資格者に対してチェックリストを用いて与薬方法の評価を行う
看護師3名、与薬有資格者 17 名に対して9月から毎月評価を行い、できていないことについてはその場で注意し、改めていくようにした。その結果、当初は声に出し呼称できていなかった職員が、声を出し確認するようになった。声に出すことで、周りの職員も注意を傾けることができるという効果があった。
これによって、9月以降薬の飲ませ間違い事故をなくすことができた。
一方で、床や衣類、車椅子に落ちているケースが9月から3月までに41件と。件数は徐々に減少したが、ゼロにはできなかった。

3. すどデイサービスセンター

(1) 事業計画

- | | |
|---------|---|
| 目的 | 全職員が地域や利用者に口腔体操や口腔ケアの重要性を説明できる。 |
| 計画内容 | 口腔体操参加カレンダーを使い呼びかけ、15分の体操に必ず参加する チームで年4回歯ブラシ交換の手紙を配りながら汚れをチェックする |
| 評価指標と基準 | ① 口腔機能訓練の実施率 90%以上 ② 3か月ごとの歯ブラシ交換を確実にを行う |

(2) 計画の実践結果

90%以上の参加有、認知症が重度の方や要介護度が高い方はなかなか参加できず職員がマッサージを行った。カレンダーは実施定着のための意識付けには至らなかった。個々に古くなった歯ブラシ交換の呼びかけを行った。全員への普及には至らなかった。

II はまかぜキャンパス

1. 元吉原デイサービスセンターはまかぜ

(1) 事業計画

- | | |
|------|---|
| 目 的 | 利用者にとって楽しみのある利用しやすいデイにすることで稼働率をあげる(1日平均26名以上) |
| 計画内容 | ①個別のアクティビティの定着(4つ以上の種類) ②個別でのサービス提供時間に対応していく(5件以上) |

(2) 計画の実践結果

個別のアクティビティについて、4種以上のアクティビティを実施することができ、記録までは行うことができたが、個別通所計画書に反映させるまでには至らなかった。利用者が積極的に参加できるアクティビティを考える等、職員意識の変化については効果があった。

個別での申し入れ、新規の方に関しては聞き取りを行い対応できている。(6件)

5 中部エリア

Ⅲ 風の杜キャンパス

1. 特別養護老人ホーム風の杜
2. 風の杜ショートステイ事業

(1) 事業計画

目的 利用者との意思疎通, ケアの標準化及び自立支援
計画内容 介護職員一人一人がすべてのご利用者の施設介護計画書を定期的に作成する。
評価指標と基準 施設介護計画書作成のルール作り。
担当職員が担当ご利用者の施設介護計画書を定期的に作成していく。

(2) 計画の実践結果

全体の6割程がスケジュール通り計画書作成が行えている。他は日時が遅れて作成となるケースが多い。ユニット内で職員がフォローしながらおおむね全職員が計画書作成に携わることが出来ている。全体の3割程がユニット会議内で合意を得る形まで達成できている。

(3) 評価指標の結果

- ①未実施のため、評価できていません。
- ②24時間シートの作成が出来ていないため、それに基づくケアは実行できませんでした。しかし、ユニット会議等で利用者一人一人の重要とするケアについては検討し、一部実行できたところもあります。
- ③未実施のため、評価できていません。

Ⅳ するが荘キャンパス

1. 養護老人ホームするが荘

(1) 事業計画

目的 利用者の意向を踏まえた、各々適切な自立した生活を送れている状況
計画内容 ①定期的な利用者との個別面談の実施
②ケース担当の定着・役割分担の明確化
③チーム編成の定着・役割分担の明確化による体制整備

評価指標と基準

- ①一人ひとりの利用者と面談機会を持ち、本人の意向を確認し支援計画への落とし込み
- ②担当の役割定義と周知
- ③支援計画へ反映する体制づくり、フロアリーダーを置き支援内容をチームで相談

(2) 計画の実践結果

- ①当年の計画通りに面談を実施することはできた。本人の意向を確認する作業としてはできている。支援計画内容へ反映にはもう1工夫していきたい。
- ②利用者担当制については、定着し、窓口として周知できている。担当として状態把握への意識も高まってきている。
- ③各担当階毎に連携や共有しながら支援へ活用していくという点では十分には実施できていない。検討や共有に対しての時間が確保しづらい状況もあった。

6 全社機能

V ケア支援

1. 美芳会支援センター

(1) 事業計画

目 的 地域で選ばれる居宅介護支援事業所になる

計画内容 ①地域住民に介護保険について、知識を広める。
②地域住民に健康に関するアドバイスができる。

評価指標と基準 ①介護保険制度の説明。介護について相談場所のリストを作成・配布。
②東部プラザ健康相談会の継続。健康増進のアドバイスができる知識の習得。

(2) 計画の実践結果

すど地域サポーターの交流会、サロン、地域行事へ出向き、介護保険制度の説明・介護相談をを実施。活動は行ったが、知識の普及までの手応えはなかった。

東部プラザでの健康相談は、毎月実施しているため定着している。測定表を来場者がファイリングできるようにしており、継続的な数値・効果も確認できた。自宅でできる簡単な運動を提示したため、継続的に実施・効果が得られたのだと思われる。

2. 富士市東部地域包括支援センター

(1) 事業計画

目 的 吉原東部日常生活圏域において、地域包括ケア体制における構築計画の概略を策定する。

評価指標と基準 ①一人暮らし高齢者へのニーズ調査の実施(1人2件以上)
一人暮らし高齢者を対象とし、生活ニーズの聞き取りを行う。

(2) 計画の実践結果

10名を対象として生活ニーズの聞き取りを実施した。昨年度と合わせ、20名のデータの蓄積ができています。適切な分析にまでは至っていない。引き続きアンケートを行い、データの分析及び実行計画を策定していく。

7 その他事業

1. 富士市委託事業

- (1) 富士市「食」の自立支援事業
- (2) 富士市生きがいデイサービス事業
- (3) 富士市健康づくりデイサービス事業
- (4) 富士市緊急ショートステイ事業
- (5) 富士市生活支援型ショートステイ事業
- (6) 介護予防ケアマネジメント
- (7) 富士市介護予防事業「地域包括支援センター介護予防教室」
- (8) 富士市介護予防事業「脳の健康教室」

2. ふじのくに型福祉サービス

- (1) デイサービス
 - すどデイサービスセンター
 - 元吉原デイサービスセンターはまかぜ
- (2) ショートステイ
 - すどショートステイ事業所

3. 介護職員初任者研修事業

平成 29 年 10 月 5 日～12 月 17 日実施(計 22 回)
計 6 名受講

4. 成年後見人等受任事業

平成 29 年度 継続 1 件 新規 1 件

8 その他の取り組み

1. 地域交流

地域交流として次のことを実施した。

- ・実習生の受け入れ
- ・ボランティアの受け入れ
- ・施設見学の受け入れ
- ・施設行事の開放

2. 委員会

法人全体として次の委員会の活動を行った。

- ・安全衛生活動委員会
- ・防災対策活動委員会
- ・事故及び苦情対応委員会
- ・身体拘束廃止委員会
- ・広報委員会
- ・法人資格運営委員会
- ・実習生委員会
- ・キャリアパス委員会
- ・利用者満足度調査委員会
- ・すど地域サポーター活動委員会

3. 3ヶ年計画

3か年計画として、以下の3つの大きな柱とそれぞれ計10項目の小分類課題を実施した。

(1) ケアの向上

- ①スピリチュアルケアの推進
- ②サンクスカードの運用

(2) 公益的活動の推進

- ①地域向け各種教室の開催
- ②初任者研修
- ③人財バンク
- ④介護予防の充実

(3) ガバナンス

- ①個別ケア
- ②コストコントロール
- ③内部監査
- ④年報の発刊